

2019年度 学校関係者評価

教育・保育理念

- 自ら学び、自ら育てる力を育む

教育・保育目標

- 自分を大切にできる子ども
- みんなを大切にできる子ども
- 自分で考え、行動できる子ども

教育・保育方針

- 互いに愛し合う心を育てる
キリスト教、カトリックの教えに基づき、祈りを通して感謝する心、互いに愛する心、尊敬し合う心を育て、一人ひとりを大切にする宗教教育
- 整えられた環境の中で、個性を大切にし、豊かな創造性・自主性・知性を育てる
かけがえのない人格を持った子どもたちが、整えられた環境の中で、自分の能力、興味や関心によって、作業を選択し、自分のペースで活動することで達成感を味わい、自己形成ができるモンテッソーリ教育

年齢別 教育・保育目標

5歳児

- ・生活に主体的にかかわろうとする
- ・友だちと協力したり、考えたりしながら、様々なことに挑戦し、自信を獲得していく
- ・生きもの、食べものを大切にする

4歳児

- ・基本的な生活習慣を身につけ、自分で考えながら行動する
- ・保育教諭や友だちとのかかわりを深め、友だちの気持ちに気づき、集団で行動できるようにする

3歳児

- ・保育教諭や友だちと遊ぶ中で、自分のしたいこと、言いたいことを言葉や行動で表現する
- ・食事、排せつ、衣服の着脱などの基本的な生活習慣が身につけ、ほぼ自立できるようになる
- ・遊びや活動を通してルールやマナーを知り、守ろうとする

2歳児

- ・保育教諭との安定したかかわりの中で、基本的な生活習慣を身につけ、友だちと一緒に遊ぶ楽しさを知る
- ・遊びを通して、のびのびと体を動かし、丈夫な体づくりをする

2		<p>り、問題が生じたときはクラスに関係なく全職員で対応するなど安心して預けられる環境をつくっているか。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保護者への連絡、保護者からの伝達などミスや遅れがないよう確実に言い、提出物の処理、事務処理をスムーズに行えているか。 	<p>教師</p> <ul style="list-style-type: none"> ・園児数増加により日々の細かな様子など、保育者と会話の回数が減ったように思われる。 ・日々の子どもの様子は連絡帳を通して、又、学期ごとの懇談会や「ホームルームだより」等によって、担任は保護者と密接に連絡を取り合っている姿が一定、評価されていると思われる。今後も保護者のあらゆる願いに応えられるよう、努力していく。 ・個々の子ども理解に努め、幼稚園での様子や健康状態をしっかりとお伝えしていき、保護者の声や思いに心と耳を傾け対応できるよう、フリー教諭などのバックアップ体制をより一層高めていく。 ・丁寧な教育・保育を心がけ、家庭との連絡を密に図るということを常に頭に置いて保育していたが、足りていなかったところもあり、こちら側からの発信を心がけていく。 	B
3	指導計画の作成と評価	<ul style="list-style-type: none"> ・個々の行事について、幼児の発達を考えながら実施し、子どもの実態やねらい等について教職員と話し合い、見直しを行っているか。 ・業務がより効率的にできるよう係活動行事、環境構成など余裕を持って計画し、能率よく機敏に作業を進めることができているか。 	<p>保護者</p> <ul style="list-style-type: none"> ・行事など、連携が図られ、スムーズな進行ができていた。 ・行事一つひとつの質をもう少し高めてほしい。 <p>教師</p> <ul style="list-style-type: none"> ・常に子ども視点で一つひとつの行事を考え、取り組んだことにより、子ども、保護者、保育者ともに満足のいくものとなった。 ・教材研究、研修を積み、保育の質を高め、保育の中で子どもに返していけるようにしていきたい。 	A A
4	教職員同士の協力・連携	<ul style="list-style-type: none"> ・保育者間の連携を十分に図り、保育の在り方を考え、教材研究、実践研究、新任教員への指導などに努めているか。 ・幼児のことについて常に保育者間で話し合い、クラス、学年を超えて情報を共有しているか。 	<p>保護者</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保育者間の連携はよく図られていた。 ・教師間でのフォロー体制がしっかりとできていた。 <p>教師</p> <ul style="list-style-type: none"> ・毎日の振り返りや、ミーティング、園内研修等で、格差のない保育を心掛けていきたい。 	A A

5	<p>教育環境の構成 幼児のみとりと理解</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・全保育者が即座に生かせる感性、保育技術を高め、子どもたちが楽しく生活したり、学んだり、育ちあったりできるあたたかい環境をつくり、人とかかわる力が育つような配慮をしているか。 ・幼児の話をよく聞いたり、言葉にならない思いやサインを受け止めるよう努めているか。 	<p>保護者</p> <ul style="list-style-type: none"> ・3・4・5歳児の縦割りクラス編成により、助けあったり、教えあったり、育ちあう姿が見られた。 ・幼稚園に行きだし、集団生活の中で譲ったり、相手を待たせたりと、育ちがたくさんみられるようになった。 <p>教師</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保護者のみなさんからは一定、評価されているように受け取られるが、これに満足せず、保育者はどのような場合にも子どもと向き合うときは、1対1の関係を保つように努力をし、一人ひとりにあった対応、保育を心がけていきたい。 ・子どもたち同士で育ちあえるような環境づくりを心がけていく。 	<p>A</p> <p>A</p>
6	<p>地域との連携 子育て支援</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・小学校との連携交流、園外の施設との交流などにより、人の温かさや、心配り、大きくなることの意味を感じる活動に取り組んでいるか。 * 預かり保育 ・本園の教育方針に従った保育を行っていながらも、縦割り保育のよさを生かし、家庭的な雰囲気づくりに努めることができているか。 ・楽しいおやつの時間を持っているか。 	<p>保護者</p> <ul style="list-style-type: none"> ・園外に出かけることにより、いろいろな立場の人と出会い、社会ができていくこと学べる機会を増やしてほしい。 ・特別支援教育、地域支援教育を前年度より多くとることが出来ていた。 <p>教師</p> <ul style="list-style-type: none"> ・私立幼稚園としての本園の在り方は、広範囲の地域から通園する保護者にとっては、見えにくくなっているものと思われる。カトリック教会所属の幼稚園としての存在価値を今後も高めるよう努力していく。 ・幼稚園ではできない体験をする機会がもてるよう、地域の方との交流を深め、地域に根ざした幼稚園になれるよう取り組んでいく。 ・「地域」の中には園の周りから、小学校、支援等の各種関連機関も含まれることから、関連機関とも密に連携し、色々な角度から子どもの成長を見守り、育んでいけるようにしたい。 ・今年度も、地域の奈良市女性防災クラブの方と共に、避難所まで歩きながら、避難経路を確認したりと、具体的な訓練が出来た。今後もこのような地域と 	<p>B</p> <p>B</p>

関係者評価

- 自己評価の結果について、内容はほぼ適切である。
- 多くの園児が楽しいと感じ、保護者の多くが、園の教育に理解を示されている結果であった。保護者アンケートのC・Dの評価について、少数だが具体的にはどのようなご意見からそう評価されたのか、わかるようであれば、その内容を吟味して、対応を考えることも必要である。
- 評価から真摯に日々の保育に取り組んでいることがよくわかる。
- 職員数も多くなるとシフトの都合上、コミュニケーションをとる時間の確保が難しいと思うが、それ故、常に「どのような子どもに育ててほしいと考えているのか。そのために大人はどう子どもと関わっていくのか、子どもの姿は・・・」といったことを問いかけ、発信し続けていくことが大事。保護者と保育者がともに、考え、協力し合いながら、子どもたちのためによりよい保育を目指して、更に歩いていくことを期待している。
- 反省点や、改善点、保育方針に対する支持、肯定意見から、教職員への自信につなげていくようにする。
- 肯定的意見が90%を超えている内容が多数あるのはとてもうれしいことである。一層の工夫と点検を進めていく。一方で、74%から80%前後の項目は子どもが自ら元気を発揮したり、モチベーションを上げてテンションを高く取り組まなければならぬ要素を含むものが多いように思う。先生や親が慌てることなく、その子その子の芽吹きを見守ることを大切にしていく。
- 全体としてよい評価が得られている。保護者からの評価も概ねよく、喜ばしい。保護者からのA評価に対し、先生方の自信のあるところはAで、また、保護者はAでももっと良くしようと思われているところは謙虚にB評価とし、向上心が伺えられる。
- 地域との連携については、保護者の評価は、毎年低いようであるが、園としては行っているのに、保護者に伝わっていないのか、保護者はもっと数多く行ってほしいのか、求めている内容が違うのかを知って改善策をさぐるのも必要かと思われる。
- 一年間の研修リストから、忙しい中、多くの研修会に参加し、努力していることは評価できる。
- これからはますます教育の質の高さがより強く求められる。教職員は子どもとかわることに満足せず、幼稚園の三年間で子どもがどう変わってきたのかを観ていく力、評価していく力をつけることが重要である。
- これからの幼稚園は確固とした自園のビジョンを持ち、地域とつながりながら、学びのコミュニケーションを形成し、学び続ける園であることが必要である。そのため教師同士が語り合い、学び合う園内研修が必須である。
- 学校運営に関しても、来年度も見える化を図り、健全に行えるようにしていく。
- 本園の教育の柱としているモンテッソーリ教育を子どもが自ら考え、行動している姿を保育参観から多く感じる事ができた。
- 園内作品展を参観して、地域の方々にも公開していくことで、本園の教育にご理解いただけるのではないだろうかと思った。
- 防災グッズを購入しただけで満足してはいけいない。使い方を職員間で練習を繰り返す行うことが大切である。消防訓練等で、「引き渡し訓練」等、保護者の方も参加していただき、共にしていくことも大事である。この引き渡しは、保育教諭にとっても災害時を想定してやっておくべきである。

総合的な評価結果

2020年5月27日（水）に開催された学校関係者評議会でおおむね達成と評価された。